

Media Release

## シンジェンタ、中国の北京に世界的規模のバイオテクノロジー研究所の建設へ

英文リリース日本語訳

2008年4月17日  
スイス バーゼル発

シンジェンタは、中国の北京に新しいバイオテクノロジーの研究所を建設することを発表しました。この研究所では、収量増加、旱魃耐性、病害抵抗性、バイオマスのバイオ燃料への転換等の分野において、トウモロコシや大豆など主要作物の組換え並びに天然形質の早期評価を行なうことに、焦点が当てられます。この新しい施設は、世界的な視野を踏まえ、現在米国にあるバイオテクノロジーの研究所の活動を補完するものです。当初5年間で約65百万ドル（約66億9,600百万円 1\$=103円換算）を投資します。

「中国は、農業分野のバイオテクノロジー研究において、その規模や能力が急速に認知されています。」とシンジェンタの研究開発部門の責任者で経営委員会のメンバーであるデビット・ローレンスは言っています。「北京に自分達の研究拠点を持つことは、イノベーションを加速し、中国の研究機関とさらに密接に研究する有力な機会を得ることになるでしょう。このことは、地球的規模でより一層の穀物の需要が見込まれる世界において、ますます重要な意味を持ちます。

この新しい研究センター、シンジェンタ バイオテクノロジー（中国）株式会社、（Syngenta Biotechnology (China) Co. Ltd.）は、北京の中关村 (Zhongguancun) ライフサイエンス パークに建設されます。センターは2010年に完成の予定ですが、2008年の夏から近接の仮施設において研究が開始されます。センターの人員は、研究者やスタッフを含め当初は約100名でスタートし、2010年の新施設完成時には、約200名まで増員の予定です。

中国は、農産物の生産及び消費拠点として重要な位置にあります。シンジェンタは、種子及び農薬の技術で中国の農業のさらなる成長に寄与するため、パートナーシップを拡張していきます。今月上旬、シンジェンタは、河北省にある中国有数のトウモロコシ種子会社である三北種子株式会社 (Sanbei Seed Co. Ltd.) と株式取引を完了し、の49%の株式を取得しました。昨年には、北京の中国科学院遗传与发育生物学研究所 (Institute of Genetics and Development Biology (IGDB)) と、トウモロコシや大豆、小麦、

テンサイ、サトウキビなど主要作物の新たな栽培形質の開発を目指し、5年間の共同研究をスタートしています。

シンジェンタは、革新的な研究と技術とにより持続可能な農業を約束する、世界のアグリビジネスをリードする企業です。農薬事業分野では世界第2位、種子事業分野では、世界第3位にランクされています。2007年度の売上高は約92億ドル、世界90カ国以上で事業を展開し、2万1,000人の従業員を擁しています。その内4000人以上の従業員が研究開発に従事しています。シンジェンタは、スイスとニューヨークの株式市場に上場しています。さらに詳しい情報は、インターネット[www.syngenta.com](http://www.syngenta.com)（英語）または、[www.syngenta.co.jp](http://www.syngenta.co.jp)（日本語）をご覧ください